

マナーキッズテニス

マナーキッズテニスは、子供たちにテニスというスポーツに触れ楽しんでもらいながら、そのレッスンの中に専門家による挨拶、礼儀作法の基本的マナー習得のプログラムも入れ、スポーツマンシップの体得と並行して世界に通用する人材育成も視野に入れて展開された取組です。

山梨県では、その趣旨に賛同していくつかの取組みを行いました。ここでは学校として取り組んだ田富南小学校とホワイトシティテニスドームの様子を記録したいと思います。

1 田富南小学校のケース

田富南小学校では、道徳と体育の授業の一環として1年生から6年生まで全児童が取り組みました。子供たちのテニスとマナーの実践は体育館で学年ごとに行われました。プログラムの流れは以下のようになります。

(1) 実施日：平成18年5月22日～23日

(2) 子供たちの取組み

①内容と講師の紹介<敬称略>

マナー：小笠原流礼法常任理事本部教授鈴木万亀子総師範

テニス：日本テニス協会普及指導本部特別プロジェクト委員長田中日出男

日本テニス協会田辺正（元デ杯選手）順天堂大学テニス部監督

山梨県テニス協会役員

田富南小学校職員

②礼儀作法の学習

小笠原流礼法教授鈴木万亀子総師範により整列した児童全員に正しいあいさつの仕方、マナーとは何かのお話をいただき、繰り返し一斉練習をした。

③テニスのレッスンとマナーの実践

テニスについて日本テニス協会田辺正コーチの模範演技を見て学習した後、楽しさが分かるスポンジボール遊びをしてテニスボールをコートで打ってみた。同時に、先ほど学んだマナーをコート上でスポーツマンシップとして表現できるように、繰り返しできるまで実践し、足りない部分がある児童には優しくアドバイスをして、体得できるまで練習した。

④実践の様子

いくつかのグループに分かれてスポンジボールによるストローク、ボレー、スマッシュを学年のレベルに合わせ楽しく体験させた。低学年児童は、はじめテニスもマナーもちぐはぐであったが、徐々に体で覚え楽しそうに時間を過ごすことができた。高学年はスポーツとしてのテニスの喜びと、マナーとスポーツマンシップを関連付けながら学ぶことができた。

(3) 保護者の学習

一方親保護者のみなさんは、子供たちがテニスの実践に入った後、教室において鈴木万亀子先生より1時間ほどマナー講習がありました。基本的な日常生活でのマナーを始め、日々の子供との接し方、学校へのお見送り、お帰りの迎え方など事例を交えながら楽しく御指導いただいた。

2 ホワイトシティテニスドームのケース

- | | |
|-----------|---|
| (1) 事業名 | 「マナーキッズテニス教室」 |
| (2) 事業の趣旨 | テニスを通じ、スポーツの楽しみ、礼儀作法の基本的マナーの習得、スポーツマンシップの体得、文武両道で世界に通用する人材の育成を目指す。 |
| (3) 主催 | 財団法人日本テニス協会 |
| (4) 後援 | 文部科学省 NHK 読売新聞社
南アルプス市教育委員会
南アルプス市テニス協会 中巨摩テニス協会 |
| (5) 主管 | 山梨県テニス協会 ホワイトシティテニスドーム |
| (6) 実施日 | 平成19年11月18日(日曜日)
10:00～12:30 |
| (7) 会場 | ホワイトシティテニスドーム |
| (8) 対象者 | 全県下小学生募集による36名 |
| (9) 講師等 | 小笠原流礼法常任理事本部教授鈴木万亀子総師
日本テニス協会普及指導本部幼稚園・小学校
特別プロジェクト委員長 田中日出男
日本テニス協会田辺正(元デ杯選手)
順天堂大学テニス部監督
山梨県テニス協会役員11名 |

(10) 事業の様子

30名簿集を上回る36名の県下小学生で実施した。はじめに、礼儀作法やあいさつの仕方について鈴木先生よりお話しがあり、以後、全てのレッスンにおいて「お願いします」「ありがとうございました」を繰り返した。実技は、田辺コーチの模範演技の後、4つの小さいコートに分かれてボレー、ストローク、スマッシュ、サービスなどを丁寧に練習した。マナーもテニス技術も一流の指導者から学び反復練習したので、始めと終わりでは雲泥の差が出る上達であった。子供達は、この教室を経験したことにより、テニスの楽しさと日常の礼儀作法・マナーについて学習することができた。子供達の練習の間に、保護者は鈴木先生から「家庭内の子供の躾」についての学習をした。

担当: 小林 繁

